

子どもの本と文化を、子どもの未来のために—

令和3年度

事業報告

一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

INTERNATIONAL INSTITUTE FOR CHILDREN'S LITERATURE, OSAKA

令和3年度 事業報告

令和3年度におきましても、文化庁の文化芸術振興費補助金を得て、「明治・大正・昭和初期の子ども向け雑誌」41誌の貴重な資料の保存・公開のためのデジタル化事業、および科学研究費助成事業として4件の研究に引き続き取り組みました。

「大阪府立中央図書館 国際児童文学館」に専門員が配置されていない運営については、当財団として懸念を抱くところではありますが、「国際児童文学館」が所期の目的であります、貴重な資料を収集・保存・活用し、円滑に事業を実施できますよう、従前どおり大阪府および中央図書館と連携・協力を図るとともに、受託しております寄贈資料の受入れ業務に務めたところであります。

令和3年度決算につきましては、収入では、寄付の増加により、869万円の増になり、支出につきましては、長引く新型コロナウイルス感染症予防対策等の影響で、前年度比約44万円の微減となっております。令和2年11月から記念寄付をお願いし、個人の方からの大口寄付もあったため、寄付金収入については前年度より約872万円の増となりました。寄付金については、令和3年度以降につきましても目標額を同額に設定しています。正味財産期末残高は例年600万円ほどの減少が続いておりますが、今回は寄付金収入の増により約462万円の増加となっております。通年ベースとしては、依然厳しい収支状況であり、引き続き安定的な運営ができるよう努力をしております。

「公益目的支出計画」における公益目的支出額では、計画の約1,977万円に対し決算額は約2,039万円となり、9期累計の達成率でも計画額を上回る113%となっております。

個々の事業については、令和3年度事業報告3頁以降の〔公益事業の部〕、〔収益事業の部〕にもとづき以下に報告します。

○役員会等の開催状況

1. 評議員会

回	開催年月日	議事内容
第1回	3.5.21	(1) 評議員の選任について
第2回	3.6.23	(1) 評議員の選任について (2) 理事の選任について (3) 監事の選任について (4) 令和2年度収支決算について (5) 令和2年度事業報告について (報告) (6) 令和3年度補正予算について (報告)
第3回	4.3.23	(1) 令和4年度事業計画について (報告) (2) 令和4年度収支予算について (報告) (3) 令和3年度事業の執行状況について (報告)

2. 理事会

回	開催年月日	議事内容
第1回	3.5.14	(1) 評議員会の招集について
第2回	3.6.23	(1) 令和2年度事業報告について (2) 令和2年度収支決算について (3) 令和3年度補正予算について
第3回	3.6.23	(1) 理事長の選定について (2) 常務理事の選定について
第4回	4.3.23	(1) 令和4年度事業計画について (2) 令和4年度収支予算について (3) 令和3年度事業の執行状況について

[公益事業の部]

I 講座、講演会等を通じた子どもの本の普及活動

下記講座等を、主催事業または講師派遣により実施し、ボランティアとの協働をすすめることにより、子どもの読書活動を推進した。

1. 大人向け講座・講演会

(1) 指導者養成のための講座

①子どもの読書活動にかかわるボランティア、司書、学校司書、教員等への本の選び方や読書活動のありように関する研修、講座のための講師を派遣した。

- ・実施回数：21回（うち3回はオンライン）
- ・講座内容：本を選ぶ・本を読む・新しい本の紹介・読書活動について等
- ・対象：文庫・読書活動ボランティアグループ（14回）、
司書・学校司書（3回）、その他（4回）

②IICLO オンライン講座 I

「授業に役立つ！子どもの文学5つのレッスン」第1回宮沢賢治を読み直す①

- ・配信日：令和3年11月30日～
- ・場所：オンライン
- ・内容：「注文の多い料理店」
- ・講師：宮川健郎（当財団理事長）
- ・対象：教員、保育士、司書、学校司書、読書活動推進関係団体等
- ・参加者：75人（2022年3月31日現在）

③「2020年に出版された子どもの本」

- ・配信日：令和3年7月～12月
- ・場所：オンライン
- ・内容：「2020年に出版された子どもの本」
- ・講師：土居安子（当財団職員）
- ・対象：教員、保育士、司書、学校司書、読書活動推進関係団体等
- ・参加者：219人

④「気になる本を読む会」

「学校司書研究会」とともに、大阪府域の学校司書と毎月テーマを決めて読書会等を行う研究会を実施した。（12回、すべてオンライン併用）

(2) 保護者や子どもの本に関心のある人へのアプローチ

①講演会

「シンデレラ話の多様な世界を楽しもう」の実施

- ・開催日：令和3年12月18日（土）
- ・場所：大阪府立中央図書館 多目的室
- ・内容：展示とのコラボレーションで、シンデレラについての講義を行った。
- ・講師：横川寿美子（児童文学研究者、同志社女子大学嘱託講師）
- ・対象：教員、保育士、司書、学校司書、読書活動推進関係団体、府民等
- ・参加者：50人

*主催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

- *後援：大阪府立中央図書館
- *子どもゆめ基金助成活動

②講演会

「第38回 日産 童話と絵本のグランプリ」表彰式

特別講演「お話の種の育て方」の実施

- ・開催日：令和4年3月5日（土）
- ・配信日：令和4年3月19日（土）～
- ・内容：童話・絵本の創作やグランプリ応募にあたっての具体的な助言
- ・講師：富安陽子（童話作家）
- ・閲覧数：735回（2022年3月31日現在）

*主催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

*協賛：日産自動車株式会社

③オンライン国際講演会

「ことばを超えて一絵で物語る」の実施

- ・開催日：令和3年12月16日（木）
- ・配信日：令和4年3月26日（土）～6月12日（日）
- ・内容：絵本作家の対談
- ・講師：デイヴィッド・ウィーズナー（アメリカの絵本作家）
ショーン・タン（オーストラリアの絵本作家）
- ・翻訳：松下宏子（関西大学非常勤講師ほか）
- ・対象：教員、保育士、司書、学校司書、読書活動推進関係団体、府民等
- ・参加者：60人（令和4年3月31日現在）

*主催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

*賛助企業：サントリーホールディングス株式会社、
富士通Japan株式会社、
ムサシ・アイ・テクノ株式会社

④日本児童文学学会第60回研究大会

講演会「今さらながら、今だからこそその少女小説－『若草物語』から『長くつ下のピッピ』まで－」ほか研究発表

- ・開催日：令和3年11月20日（土）、21日（日）
- ・場所：大阪府立中央図書館大会議室、多目的室＋オンライン
- ・講演会講師：斎藤美奈子（文芸評論家）
- ・対象：児童文学研究者、府民等
- ・参加者：165人（会場47人 オンライン118人／会員109人 一般56人）

*主催：日本児童文学学会第60回研究大会実行委員会（事務局：当財団）

*協力：大阪府立中央図書館

(3) 子どもの本の魅力や子どもと本を共有することの大切さを伝える講座のための講師や審査員を派遣した。19回（うちオンライン9回）

子どもの本を楽しむ会 11回（うちオンライン5回）

保護者・一般向き児童文学・絵本講座・フォーラム 3回（うちオンライン2回）

参考：遠隔講座「講演と新刊紹介 2020年に出版された子どもの本」（大阪府立中央図書館主催）の参加者：1,143人（無料）

審査員：5件

第17回大阪こども「本の帯創作コンクール」

令和3年度「心の輪を広げる体験作文」審査（大阪府福祉部）

第40回人権啓発詩・読書感想文審査会（大阪府府民文化部）

大阪いずみ市民生活協同組合「コープのえほんでスマイル」専門委員会 他

2. 本と子どもを結ぶ活動

- (1) 小学校や美術館等で美術と絵本を楽しむイベント等を計5件実施した。
小学校（2件）、ちっちゃなこどもびじゅつあー（国立国際美術館）
- (2) 児童養護施設でのおはなし会の実施
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため訪問できなかった。
- (3) 図書館等でのおはなし会・人形劇の実施
 - ①大阪府立中央図書館こども資料室でのおはなし会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のためすべて中止になった。
 - ②吹田市立山田駅前図書館でのおはなし会を実施した。（2回）
出演：職員、おはなしポップ
- (4) 図書館等での街頭紙芝居の実施
街頭紙芝居の実演を行った。
 - ・事業名：むかしの紙芝居を楽しもう
 - ・開催日：令和3年11月6日（土）
 - ・場 所：大阪府立中央図書館
 - ・出 演：一般社団法人 塩崎おとぎ紙芝居博物館
 - *主 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館
一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団
 - *協 力：一般社団法人 塩崎おとぎ紙芝居博物館
- (5) 「おはなしモノレール」
令和3年9月23日（木・祝）に開催を予定し、準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症流行のため中止した。
*子どもゆめ基金助成活動

3. ボランティアの参加と協働による事業の充実

- (1) ボランティア研修講座の開催
 - ・回 数：3回（自主研修）
 - ・対 象：令和3年度ボランティア登録者
 - ・内 容：おはなしの選び方・覚え方・語り方、絵本の選び方
- (2) ボランティア登録者の事業参加
当財団のボランティア研修講座及び人形劇講座を修了したボランティア登録者に、上記2「本と子どもを結ぶ活動」の各種事業等への参加を求め、協働することによって事業の充実を図った。あわせて、財団事業の広報チラシ配布等についても協力をお願いした。
 - ①おはなしポップ
 - ・登録者数：19名
 - ・活動回数：2回
 - ・活動場所：吹田市立山田駅前図書館（2回）

②人形劇サークルぱれっと

- ・登録者数：4名
- ・活動回数：0回

II 子どもの本の文化に親しむ機会の提供

○創作童話・絵本の募集コンクール

「第38回 日産 童話と絵本のグランプリ」事業を実施した。

- ・応募数：童話 1,763点（前年 2,283点） 絵本 347点（413点）
計 2,110点（2,696点）
 - ・童話予備審査：令和3年11月11日（木）～14日（日）
 - ・絵本予備審査：令和3年11月17日（水）
 - ・童話 本審査：令和3年12月9日（木）
 - ・絵本 本審査：令和3年12月10日（金）
 - ・表彰式：令和4年3月5日（土）オンライン
 - ・入賞作品展示：令和4年1月6日（木）～3月27日（日）
大阪府立中央図書館
- *協賛：日産自動車株式会社

III 教材開発を通じた子どもの読書活動の推進

1. 「マンガのひみつ大冒険！ おすすめマンガがいっぱい！！」の普及
子どもと子どもに読書をすすめる大人を対象に、マンガを通じた読書の楽しさや広がりや、検索したり、遊んだり、体験しながら知ることのできる読書活動支援ソフトの普及を図った。
2. 「ほんナビきっず」の更新・普及
子どもがインターネットで楽しく遊びながら、ことばや感情を選ぶことによってお気に入りの本に出会うシステムを富士通Japan株式会社とともに開発したが、今年度も図書データの追加更新と普及に努めた。
新刊あらすじ・キーワード データ投入件数：1,478冊
3. 「ドキドキ絵本づくり for Kids」の更新・普及
平成25年度にウェブサイト上で、絵本について学ぶことができ、実際に作ってみることができるコンテンツを「ドキドキ絵本づくり for Kids」として開発したが、今年度はちらしの配布、ワークショップ等を通して普及を行った。
4. 「本の海大冒険」の更新・普及
ウェブサイト上で、子どもがクイズをしながらお気に入りの本を探すことのできる読書活動支援ソフト「本の海大冒険」に図書データの追加更新と普及に努めた。
*協力：株式会社ジャスティス

IV 子どもの本を通じた国際交流事業

海外の作家を招いた講演会の開催、海外への日本の児童文学の情報提供や子どもの本に関する資料の交換を行うことにより、国際的な視野での読書活動推進を行った。

1. オンライン国際講演会（再掲）

国際講演会「ことばを超えて一絵で物語る」の実施

- ・配信日：令和4年3月26日（土）～6月12日（日）
- ・講師：デイヴィッド・ウィーズナー（アメリカの絵本作家）
 ショーン・タン（オーストラリアの絵本作家）

2. リンドグレーン記念文学賞（ALMA）受賞候補者の推薦

児童文学に関する国際的な賞であるALMAの受賞候補者を推薦した。

この賞は、2002年児童文学作家アストリッド・リンドグレーンを記念して、スウェーデン政府が設立した。世界中の子どもが文学への関心を深めること、「子どもの権利」を世界レベルで守っていくことを目的とし、毎年、作家や画家、ストーリーテラー、読書普及活動団体などに贈られる。世界各地に推薦団体がある。

3. 情報、資料交換

当財団の活動及び日本の児童文学の状況について紹介した「IICLO REPORT」（英文レポート）を電子メール等で、海外の児童文学専門機関等に提供するとともに、ホームページで当財団の事業などの情報を提供した。また、海外の関係機関と情報、資料の交換を行った。

資料と情報の交換対象機関

- ①フィンランド児童文学研究所
- ②ミュンヘン国際児童図書館（ドイツ）
- ③スウェーデン児童文学研究所
- ④スイス児童および青少年メディア研究所
- ⑤Seven Stories（英国・子どもの本センター）
- ⑥浙江師範大学 国際児童文学館（中国） 等

V 国際児童文学研究賞（国際グリム賞）事業

世界の児童文学研究に貢献する人々の業績を顕彰することにより、国際的な児童文学研究の振興に寄与する。令和3年度は第18回授賞式と受賞者の講演会を行い、オンラインで配信した。

- ・表彰式：令和4年1月29日（土）
- ・場 所：大阪府立中央図書館 多目的室
- ・配信開始：令和4年3月12日（土）～
- ・記念講演会演題：「21世紀における中国児童文学の創作と研究の潮流」
- ・受賞者：朱 自強 教授（中国海洋大学教授）
- ・翻 訳：浅野法子（大阪成蹊短期大学准教授）
- ・閲覧者：347人（2022年3月31日現在）

*主 催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団
 一般財団法人 金蘭会
 大阪府立大手前高等学校同窓会 金蘭会

VI 大阪府子ども読書活動推進施策への協力

大阪府が推進する「第3次大阪府子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書活動に関わる他の団体・組織とともに、府内のすべての子どもたちが本を読む喜びを味わい、豊かな感性をもつことができるような環境づくりに努める。

VII 研究及び出版等の企画事業

1. 共同研究・調査の実施

当財団職員と子どもの本に関わる分野の専門家が学際的に協働し、研究を行う。研究成果については、学会や「研究紀要」で発表するほか、当財団のホームページに登載するなど広く普及し活用を図った。

- (1) 「明治・大正期における児童文学・児童文化史の研究－巖谷小波未発表資料の検討を通して」の調査研究を外部研究者とともに行った。
 - ・研究会（4回 令和3年7月25日、9月12日、12月26日、令和4年3月27日）
 - ・『大阪国際児童文学振興財団 研究紀要』第35号（4本）
 - *独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（C）
（研究代表者：土居安子、令和2～令和4年度）
- (2) 「古田足日と子どもの文化をめぐる総合的考察－蔵書・資料のデータベース化、調査を基に」
 - *独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（C）
（研究分担者：宮川健郎、令和2～4年度）
- (3) 「冷戦前期・東アジア英米文学のジオポリティックス」
 - *独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（B）
（研究分担者：鷺谷花、令和2～5年度）
- (4) 「日本における女性映画パイオニア：フェミニスト映画史の国際的研究基盤形成」
 - *独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（B）
（研究分担者：鷺谷花、令和2～6年度）

2. 出版企画・展示企画

- (1) 「第37回 日産 童話と絵本のグランプリ」受賞作品の出版
 - ・童話大賞受賞作品『ながみちくんがわからない』
（数井美治/作 奥野哉子/絵）
 - ・絵本大賞受賞作品『マロングラッセ』（だるま森/作）
BL出版（株）と提携 令和3年12月刊行
- (2) 博物館、文学館等における展示企画
 - ・タイトル：「シンデレラ本 いま・むかしー三宅興子さんのコレクションを中心に」
 - ・開催日時：令和3年11月12日（金）～12月28日（火）
 - ・場 所：大阪府立中央図書館 展示コーナー
 - ・内 容：三宅興子さん寄贈のシンデレラ本の展示
 - ・対 象：大人と子ども

- *主 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館
- *協 力：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

3. 論文集「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第 35 号の発行

公募論文	3 本	
共同研究メンバーによる論文	4 本	
第 18 回国際グリム賞受賞記念講演	1 本	計 8 本掲載

4. 報告集の発行

- ・『2020 年度 講演会報告集 しかけ絵本に驚く、楽しむ イギリスの歴史からはじめて (講師：三宅興子)』

5. 特別研究員制度の活用

財団が企画・実施する研究に対して、共同・協力して研究を行おうとする外部研究者を特別研究員とする。

今年度は 9 名。上記 1 の共同研究等への協力を得た。

VIII 児童文学等に関する図書、記録その他の資料の収集

児童書、および児童書に関する資料について幅広く寄贈を受けた。寄贈された資料は、永久保存および一般の利用に供するため、大阪府立中央図書館 国際児童文学館に引き継いだ。

- ・日本及び外国の児童図書
- ・児童文学・児童文化に関する研究書
- ・整理業務及び閲覧に必要な参考資料
- ・上記についての雑誌、新聞等の逐次刊行物

IX 子どもの本の文化の振興・発展に関する事業等

企業や支援者・団体等と連携を図り、子どもの本の文化の振興・発展に関するさまざまな事業に取り組んだ。

1. 雑誌『良友』、『月刊子供マンガ』等のデジタル化

大阪府立中央図書館国際児童文学館所蔵の明治・大正・昭和初期の子ども向け雑誌の保存のためのデジタル化を行った(34 誌+遡及分 7 誌 451 点)。また、その内容細目のデータ化を行い、データをメディア芸術データベースへ提供した(12,092 件)。

*文化庁文化芸術振興費補助金メディア芸術アーカイブ推進支援事業

2. 情報発信事業

(1) ホームページの作成

ホームページを日常的に更新し、以下の活動を行った。

- ① 当財団の事業、研究成果などの紹介
- ② 「ほんナビきっず」の管理・運営
- ③ 「子どもの本 いま・むかし」「本の海大冒険」「日本の子どもの本 100 選」「ドキドキ絵本づくり for Kids」「マンガのひみつ大冒険! おすすめマンガがいっぱい!!」の管理・運営
- ④ 国内の児童文学・児童文化関連事業の情報収集・発信

- (2) メールマガジンの発行
毎月1回(20日頃)発行。
登録会員数: 3,689人 (令和4年3月23日現在)
- (3) YouTubeでの情報発信
子ども向け新刊紹介である「YouTube 版本の海大冒険」(週1回)と大人向け「新刊子どもの本ここがオススメ!」(月1回)を発信した。
- (4) ツイッターでの発信
財団業務日に毎日1回以上発信。

3. 広報活動

- (1) 報道機関等への情報提供
報道機関等へ事業等について積極的に情報提供を行うほか、大阪府のホームページなどの広報媒体への資料提供を行った。
- (2) レポートの発行
財団の1年間の活動状況を報告するレポート「大阪国際児童文学振興財団 REPORT No. 11」を発行した。 年1回

4. 寄付金募集

財団事業を充実させるとともに、児童文学に関わる方々や企業・団体とともに事業展開を進めるため、財団を支援いただけるように寄付を呼びかけた。特に、厳しい財政状況を改善するため、移転10周年を記念して寄付を募り(令和3年10月31日まで)、キャラクターグッズのプレゼントを行った。キャンペーン終了後も寄付募集を継続している。

移転10周年寄付(令和2年11月1日～令和3年10月31日) 506人 640万円

令和3年度実績 379件 14,458,748円

[収益事業の部]

I 企業等が行うイベントや出版・展示に協力する事業

子どもの本の発行や、子どもと本を結ぶ事業を行なおうとする企業・団体等から業務委託を受ける。

○出版企画等

(1) 出版社等による図書出版にかかる企画・制作業務の受託

博文館創業 120 周年記念「少年少女譚海」の復刻のための調査、企画会議等を行った。

委 託 元：株式会社 博文館新社

(2) 出版社等による図書出版にかかる企画協力

・「コープのえほんでスマイル」絵本選定、ガイドブック原稿作成

委 託 元：大阪いずみ市民生活協同組合

(3) 出版社等による図書データ作成・企画協力業務の受託 計 4 件

・「進研ゼミ電子図書館 まなびライブラリー」掲載図書の選定等を行った。

委 託 元：株式会社 ベネッセコーポレーション

・「小学生が楽しめる英語の絵本45」の本の紹介を執筆した。

委 託 元：公益財団法人伊藤忠記念財団

II 出版物の販売及び著作権管理にかかる事業

1. 当財団発行の出版物の販売

事業報告集や「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」等を販売した。

講演会等報告集 208 冊

研究紀要 20 冊

2. 著作権管理に関する事業

「日産 童話と絵本のグランプリ」受賞作品等の著作権管理を行った。

III 児童文学等に関する寄贈図書資料受入事業

大阪府立中央図書館から寄贈資料の受入れに関する業務を受託し、出版社等からの寄贈資料にかかる受入れ業務を行った。受け入れた資料については図書館に引き渡し、図書館内部の手続きを経た後、大阪府立中央図書館 国際児童文学館に受け入れられた。

引渡件数：図書 4,109 冊 雑誌 4,380 冊 その他資料 1030 点 計 9,519 点

(うち三宅興子特別顧問からの寄贈 2,636 点)

○

令和 3 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書は、事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので作成しない。

令和 4 年 6 月

一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団